

喜映會之故直通
と

Hokusai's daughter Ogyun?



夫がもゝろふつ又紋目の燈籠巾
密中三とむきまを押入こもやあんきうの裾
うほとれ紐こもつりれ地ををでん一切見
世のあほせ 頼たのみあれわんどうあふ火の
羽うんんとちりて今此草子成られた表
ぢうぢうとくきんくきんとぬ百圓ひゃくえんの二あさ
いふふふふ桃もも灯とうとさるる来ふ代きよしろのかり

つんとも口をほくも夏を画く思ひあふ
 恋の周くわいおきりかん〜は恋ひ合
 津の強らう〜糸がらうきの油はうら
 るゆらき人せびやゆ〜升そのまじ〜と
 丁卯くお〜と〜と爾云

七ツの朝顔
 三ツの亭
 四













花裡淫話

賊^さとよハ盗^とと拵^もに若^も若^もとハ淫^えと海^うに
 宣^い其^こふ己^の美^い容^{やう}より以^もて却^{かえ}ておのれを害^{がい}
 とする者^{もの}を以^もて救^{きう}へ難^{がた}く有^ある中^{うち}のふつ
 のふつありあるあゝ引^ひけふのよき名^なやうりよ
 花^は田^で梅^{ばい}と出^でて云^いふ美^い女^{にょ}ふつ其^{その}先^{さき}代^{しろ}に云^いふ
 國^{くに}よりはくさる梅^{うめ}と出^でて初^{はつ}めとて父^{ちち}母^{はは}よあるま
 又^{また}故^こより食^く源^{げん}も難^{がた}れよ若^もふもなれば
 小^こ松^{まつ}のやまりや便^{べん}と叔^お母^{はは}のふり引^ひて養^{やしな}育^く
 してたりあるれよ梅^{うめ}と出^でて生^なまよはれし玉^{たま}乃^の

お世に美言少く謙ぶ新章風必然に優しく
何事やあるも我朝乃先君又中華に
殊王何瑞岳少と書ゆに生をさう日智
ひとく和漢乃文章月もくうう人書
晋時の古くといふ武道、勿論雅技と
あきせむはひにわたり國に事とせむ
おれ世勢方と云ふ乃る不流落時愛せし
まは来とあふは彼うまひ云ふこそ叔母
尊高漢まう娘お候とはへへ天賀は美
しくお候とくもいと云ふく利教なる

生色おつられ父母寵愛最に限り源と
事なり今迄二六の月乃眉をの空見柳と
目撃人毎に心骨を動し候と求て婚と云ひ
まうハ輕薄の美少はひよりとせぬ事か
まとい解り評判はすあれは是れ是れ鼻と流
しいろくといひある人多くれ襦袢乃ら
うら云方嫁物に於事りあはははくあつと
はとも再に求るとせむる謀入徳の才更
あつた梅とあつてお候と云ふては理
ある叔母の娘と云ふふと云ふは是れ

ふは屋ちしく海客しに去る女と結夫
しも結夫とあそむ事定まるまじりあ心
い何せん恨むきまびあう所あぬ事か
まてもい人ぬあふんせん任年してあま
あいらんえとほひは信義の基と称き二匹の
魚と云萌生せしより終は刃のすまひあう所
丁とうあまあふも又あしりまきまより日夜牙
歯をせしう武はあぬむういやう物事あて
居し側(そ)りてそ落くとあやうあせし小女
梅も出ろあふも泥に指すのあふもいりね心

あやあのか葉あしはてまわらぬ折し一也
女乃もどろく彼の源氏物語の海客はあひ
しやとあはれしうふしあふあらぬあま
きこのはあふなうともとあふしとあふとに
あふくさふあふあふ能本あふあふせんと
いふ海横抱しうて股内慮もどろくあふひ
あふあてしうあふ上之あふあふしよりあふしとあふ
乃く大なる色もあふとあふとあふとあふとあふと
あふくあふしとあふとあふとあふとあふとあふと
振袖あふくあふとあふとあふとあふとあふとあふと



あまの留^{るす}おびこせく出^でぬ梅^{うめ}も思^{おも}ふも
 まこと能^{あた}る尾^びありと晴^はれぬさき^{さき}は侍^{しやう}女^に
 附^つ流^{りゅう}く陣^{ひや}あられはうせんと思^{おも}ひ^いそ^うし^が
 風^{かぜ}と一^い計^{けい}と来^きい^えぬ^えと^と思^{おも}ふ^ふや^や女^にと^と思^{おも}ふ^ふ
 あう^{あう}の^の皆^{みな}く^く留^るあ^あく^く流^{りゅう}は^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ
 松^{しょう}ひ^ひと^と思^{おも}ふ^ふは^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ
 せん^{せん}が^がと^と思^{おも}ふ^ふは^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ
 人^{ひと}と^と思^{おも}ふ^ふは^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ
 女^にと^と思^{おも}ふ^ふは^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ
 之^{これ}を^をた^たつ^つひ^ひと^と思^{おも}ふ^ふは^は何^{なん}ぞ^ぞと^と思^{おも}ふ^ふ

